

proofpoint.

Proofpoint SER (Secure Email Relay)

アプリメールに対する送信元認証支援サービス：
アプリケーションやSaaSパートナーからのトランザクションメールを制御し、保護するための優れたソリューション

主なメリット

- 社内アプリケーションだけでなく、Salesforce、ServiceNow、WorkdayなどのSaaSプロバイダーからのトランザクションメールも保護
- 送信前にすべての送信元からのメールのDKIM署名を有効にすることで、DMARCの実装を促進
- 不正アクセスされたサードパーティアプリや、組織のSPFレコードにIPアドレスを登録している脆弱なメールサービスプロバイダーから、信頼できるドメインを用いたメールが送信されないよう保護
- ペイロードの暗号化や情報漏えい対策 (DLP) により、個人を特定できる情報 (PII) や保護されるべき医療情報 (PHI) など、アプリケーションメール内の機密データを保護*
- オンプレミスのメールリレーを、安全なクラウドベースの代替ソリューションに置換え
- ユーザーメールをアプリケーションメールから分離することにより、ユーザーメールへの影響を防止

*オプション

このソリューションは、人に起因するリスクの4つの主要エリアを低減する、プルーフポイントの「人」を中心とした統合型セキュリティプラットフォームの一機能です。



Proofpoint SER (Secure Email Relay) は、トランザクションメールを統合し、保護します。不正アクセスされたサードパーティのアプリなどの送信者が組織のドメインを使用して悪意のあるメールを送信するのを防ぎ、DKIM署名を有効にしてDMARCコンプライアンスを満たすことを可能にします。Proofpoint SERは、ホストされたソリューションとして、クラウド移行の取り組みを実現できるよう支援します。

アプリケーションは、オンプレミスのシステムからクラウドに移行しつつあります。この移行により、組織の攻撃対象領域が拡大するおそれがあります。「本人になりすまして」送信されるメールは、制御対象外の人物がサードパーティアプリを使用して送信したものである可能性があります。この設定により、メールアドレスはスプーフィングに対して脆弱な状態のままになります。適切に制御しなければ、攻撃者が企業の情報を容易に盗むおそれがあります。攻撃者は承認済みの送信者のクラウド環境を悪用し、本人になりすまして悪意のあるメールを送信するおそれがあります。このようなメッセージは、SPF/DKIM/DMARCをパスし、顧客、パートナー、従業員に直接送信される可能性があります。

Proofpoint SERは、個人情報を利用する、トランザクション目的のアプリケーションメールに対して、セキュリティ/コンプライアンス対策をおこないます。この種のメールは、社内アプリやSalesforce、ServiceNow、WorkdayといったサードパーティのSaaSパートナーから発信されます。メールには、請求書、認証コード、確認通知などが含まれます。これらはユーザーが作成したメールから分離されても、Proofpoint SERは同じレベルの保護を提供します。

Proofpoint SER (Secure Email Relay)

コンプライアンスに違反しているアプリケーションメール

セキュリティとコンプライアンスを保証するアプリケーションメール



*オプション

図1：セキュアかつクリーンでコンプライアンスに準拠したトランザクションメールを確保します。

トランザクションメールの例として、以下のようなものが含まれます。

- 報告・通知
- パッケージ配送通知
- 注文確認
- 電子レシート
- 保険の見積
- 満足度やフィードバックのリクエスト
- タスク通知
- IoTまたはデバイスのアラーム通知
- アラート/危機管理

Proofpoint SERでは、すべてのメールにDKIM署名を使用することにより、DMARC導入がより簡単になります。アンチスパム/アンチウイルス技術を利用して、メールを評価します。

また、ペイロード暗号化やメール情報漏えい対策 (DLP) が利用できるため*、機密データに関するリスクの低減につながります。Proofpoint SERにより、メールアドレスを制御することができます。したがって、顧客、パートナー、従業員は、間違いなく本人からのメールのみを受信できるようになります。

*オプション

脆弱な環境からメールを保護

アプリケーションメールやメール サービスのプロバイダーは、組織のドメインを使用したメールの送信が許可される可能性があります。セキュリティのベストプラクティスを遵守していない場合が多く、これが、アカウント侵害やプラットフォームの悪用につながるおそれもあります。どちらの場合でも、犯罪者は組織の信頼できる正規のドメインを使用し、メール認証をパスすることで、悪意のあるメールを送信する可能性があります。

Proofpoint SERでは、検証済みの企業のみメールリレー サービスの利用を許可するクローズドシステムが採用されています。そのため、認められていないユーザーは、プルーフポイントのプラットフォーム上でフリーのアカウントを登録することはできません。これにより、脆弱なまたは不正アクセスされたメール サービスプロバイダーがもたらすリスクを大幅に低減できます。

また、SMTP認証やTLS (STARTTLS) を使用して、承認済みのアプリケーションからメールを安全に受け取ることもできます。各メッセージには、プルーフポイントのアンチスパム/アンチウイルス対策が講じられます。本人になりすまして悪意のあるメール

を送信しようとし、通信自体は認証を受けている場合であっても、Proofpoint SERは見逃さずにこれをブロックします。アプリケーションメールを信頼できるIPアドレスに一元管理することもできます。これにより、組織に代わってメールを送信するアプリケーション送信者を犯罪者から分かりづらくさせることができます。

DMARC導入を促進

一部のアプリケーションまたはSaaSプロバイダーは、DKIM署名に対応していません。SPFのみをベースとしたDMARC認証をクリアすることができますが、DKIM認証がなければ、正規のメールに必要な認証の冗長性を欠くこととなります。たとえばメールの転送はSPFのみでDMARC認証をクリアさせることが極めて困難になります。Proofpoint SERは、送信前にメッセージにDKIM署名を行うことで、これらのトランザクションメールをDMARCコンプライアンスに完全に適合させることができます。これにより、組織のドメインに関するDMARCのReject (受信拒否) ポリシーを迅速に適用できるため、犯罪者はもはやなりすましをおこなうことはできなくなります。

アプリケーションメールに関する規制コンプライアンスの遵守

アプリケーションはクラウドに移行しつつあります。クラウド移行が進んでしまうと、規制コンプライアンスの観点では、あまり理想的とは言えないメールの選択肢しか残されなくなってしまいます。オンプレミスのシステムでアプリケーションメールを転送している組織もありますが、脆弱な外部環境にさらされることとなります。また、クラウドベースのポイント ソリューションで何とか対応している組織もありますが、このようなソリューションは、アクティビティを一括表示できないことが多々あります。

Proofpoint SERでは、アプリケーションメールに関する規制コンプライアンスの基準を満たすことができます。個人を特定できる情報 (PII) や保護されるべき医療情報 (PHI) にアクセスできるアプリケーションからのメールでは、通信やペイロードを暗号化することができます。また Proofpoint SERでは、アプリケーションメールに情報漏えい対策 (DLP) やアーカイブ ソリューションを使用することができるので*、SEC (米国証券取引委員会) やFINRA (米国金融業規制機構) の規制にも対応しています。

プルーフポイントでは、Proofpoint SER (Secure Email Relay) のオプションのアプリケーション オーナー サポート、移行の計画と実施、導入後の配信サポートサービスをご用意しています。

*オプション

詳細はこちら

詳細は、proofpoint.com/jp でご確認ください。

プルーフポイントについて

Proofpoint, Inc. は、サイバーセキュリティのグローバル リーディングカンパニーです。組織の最大の資産でもあり、同時に最大のリスクともなりえる「人」を守ることに焦点をあてています。プルーフポイントは、クラウドベースの統合ソリューションによって、世界中の企業が標的型攻撃などのサイバー攻撃からデータを守り、そしてそれぞれのユーザーがサイバー攻撃に対してさらに強力な対処能力を持てるよう支援しています。また、Fortune 100 の 85% の企業などさまざまな規模の企業が、プルーフポイントのソリューションを利用しており、メールやクラウド、ソーシャルメディア、Web 関連のセキュリティのリスクおよびコンプライアンスのリスクを低減するよう支援しています。詳細は www.proofpoint.com/jp にてご確認ください。

©Proofpoint, Inc. Proofpoint は、米国およびその他の国における Proofpoint, Inc. の商標です。記載されているその他すべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。